

年縞の分析による年単位の環境史復元と稲作漁労文明の興亡

安田 喜憲 (国際日本文化研究センター・研究部・教授)

【研究の概要等】

本研究は湖底に堆積する年縞堆積物の各種分析からアジア太平洋地域の環境史を年単位で復元し、その環境の変動がアジア太平洋地域の文明の興亡にいかなる影響を与えたかを解明することを目的とする。年縞による高精度の環境史の復元はアジアでは日本人が独自に発達させた技術であり国際的にも高く評価され注目されている。この年縞の分析によって気候変動や森林破壊などの環境史を年単位で復元し、アジア太平洋地域の文明の興亡にいかなる影響を与えたかを解明する。具体的には、

過去1万年間のアジア太平洋地域の主要な地点における環境史を年単位で復元する

アンコール遺跡を中心とするメコン文明の興亡と水環境の変動の関係を解明する

ボロブドール遺跡を中心とするインドネシア文明の興亡と環境変動の関係を解明する

イースター島を中心とする太平洋諸島の文明の興亡と環境変動の関係を解明する

長江文明から日本文明を中心とする東アジアの稲作漁労文明の興亡と環境変動の関係等を解明する

【当該研究から期待される成果】

メコン文明の興亡と水環境の変動、長江文明の興亡と気候変動などアジア太平洋地域の稲作漁労文明の興亡が環境の変動からいかなる影響をこうむったかを解明することによって、21世紀の持続型文明社会を構築する上において、稲作漁労文明のもっている持続型の文明のエートスを再評価する社会的気運を醸成できる。地球環境の変動の中で稲作漁労文明がいかに興亡してきたかを解明することは、近未来の地球環境の激動期に日本を含むアジア太平洋地域の稲作漁労文明がいかに持続的に生き残るかを予測するうえにおいて必要不可欠な重要なヒントが得られるものと期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

安田喜憲『文明の環境史観』中公叢書、2004年、1-346頁

Yasuda Y. (ed.): Monsoon and Civilization. Lustre Press and Roli Books, 2004, 1-440pp.

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 35,000,000 円

【ホームページアドレス】

なし